やまぐち次世代型教育推進事業における授業改善サポート事業

基礎学力の定着と学習意欲の喚起を図る取組の充実に向けた

実践事例集

令和４年３月

山口県教育委員会

もくじ

はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　1

やまぐち次世代型教育推進事業における授業改善サポート事業ついて　・・・・・・　2

実践事例
　○　山口県立熊毛南高等学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

　○　山口県立下関双葉高等学校　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　5

はじめに

社会や生活の変化が加速度を増し、複雑で予測困難な時代において、学校教育には、子どもたちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることなどが求められています。

こうした中、令和４年度から年次進行で実施される新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質・能力を「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の３つの柱に整理するとともに、各学校において、教育課程に基づく教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図る「カリキュラム・マネジメント」の確立を図ることとされています。

また、生徒に必要な資質・能力を育むための学びの質に着目し、授業改善の取組を活性化していく視点として「主体的・対話的で深い学び」を位置付け、各教科等の指導に当たっては、資質・能力が偏りなく育成されるよう授業改善を行うこととされています。

県教育委員会では、令和４年度からの新学習指導要領の年次進行による実施を見据え、平成 30 年度から「やまぐち次世代型教育推進事業」を立ち上げ、県立高等学校７校を次世代型教育パイオニア校に、また２校を授業改善サポート校に指定し、新学習指導要領の趣旨を踏まえた指導方法や評価方法の開発、授業改善などの実践研究に取り組んできたところです。

このたび、その成果の普及の一環として、高校生の基礎学力の確実な定着に向けたＰＤＣＡサイクルを構築・確立するための参考となるよう、授業改善サポート校における３年間の実践研究の成果を「実践事例集」に取りまとめました。

各学校におかれましては、生徒や学校、地域の実態を適切に把握した上で、教育の目標を明確化し、教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成や、教科等の枠を超えた横断的・総合的な学習の推進など、教科等間のつながりを意識した「カリキュラム・マネジメント」を円滑に進めていただくとともに、本事例集を活用して、高校生に求められる基礎学力の定着と学習意欲の喚起を図る取組を充実していただきますようお願いいたします。

令和４年３月

山口県教育庁高校教育課長　　国清　賢一

やまぐち次世代型教育推進事業における授業改善サポート事業について

１　目的

「高校生のための学びの基礎診断」制度を活用して、生徒の基礎学力の定着や学習意欲の喚起を促すＰＤＣＡサイクルの構築・確立に資する実践的な研究を、指定する学校（授業改善サポート校）で行うとともに、その成果を全ての県立高等学校等に普及することにより、各学校における高校生に求められる基礎学力の定着と学習意欲の喚起を図る取組を充実させる。

２　対象

令和元年度に決定した授業改善サポート校

※　実施については、学年単位、学科単位等も可とする。

３　期間

平成３１年４月から令和４年３月まで

４　内容

「高校生のための学びの基礎診断」において認定された測定ツールを活用して、高校生の基礎学力の定着や学習意欲の喚起を促すＰＤＣＡサイクルの構築に向けた校内研修体制等の開発及び普及を行う。

山口県立熊毛南高等学校

学校概要

【学校教育目標】果敢に課題に挑戦し、主体的に未来を拓こうとする自立した生徒の育成
【設 置 学 科】普通科
【 生 徒 数 】１年７２人、２年６０人、３年９０人
（R4.2.1現在）

研究テーマ

多様な進路選択を行う生徒に対して、基礎学力を定着させ、学習意欲を向上させるための教科指導のＰＤＣＡサイクルを構築・確立する。

実 施 内 容

◆ **使用した測定ツール**

第２回スタディーサポート（ベネッセコーポレーション）

◆ **実施の概要**

～1 年間の流れ～

- １年次生第１回スタディーサポート
- 第１回スタディーサポート結果の分析
- 第１回学力向上委員会開催（研究推進の方向性の確認）

P

- 授業公開週間　　授業改善に関する研修会
- 第２回スタディーサポート（本事業の活用による測定ツール）
- 授業公開週間　　実践研究報告

D

- 第２回スタディーサポート結果の分析
  生徒の学習成果や課題、学習状況の変容等
- 第２回学力向上委員会（これまでの取組の成果や課題等の確認）

C

- 第３回学力向上委員会（年度における課題及び次年度の取組）

A

１年次の PDCA を２年次も継続実施

◆ **授業改善に関する研修会**

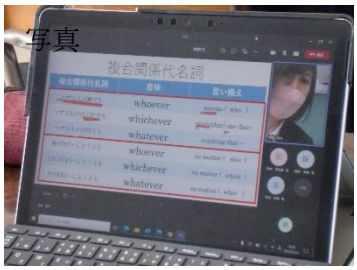
- 「生徒の基礎学力の向上や学習意欲の喚起を図るための授業改善や教科指導のＰＤＣＡサイクルの構築・確立」　　講師：岡山大学大学院　岡崎教授（R1）
- 「授業改善　小・中学校の教員は、何をしているのか」　講師：山口大学　中谷准教授（R2）
- 「スタディサプリ」に関する研修　講師：リクルート（R3）
  「ICT 技術を活用した個別最適な学びについて」
  「時代に求められる資質･能力を伸ばす学び方について」

～研修後の教員の感想～
・教員の立場から授業を進めていくことばかりを考えていましたが、生徒目線で考えたときに、どのようにしたら意欲的に取り組めるかについても考える必要があると感じました。
・小学校、中学校の先生方の取組を客観的に知ることができてよかったと思います。特に、「ねらい」「見通し」「振り返り」などを板書することはすぐにできることだと思いました。
・子どもの姿を分析し、授業改善につなげていくことの必要性を再認識できました。

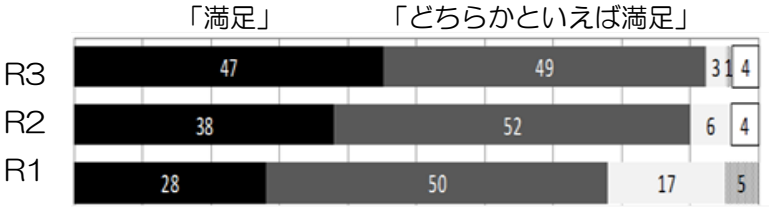
◆　教員の授業改善の実践　～教員の振り返りより～

・生徒の理解状況を毎回確認しながら、一方的な説明にならないように授業を行った。
・生徒同士でコミュニケーションを取ることができるようになった。
・発問を工夫することにより、生徒が自らの課題を見つけられるようになってきている。
・電子黒板とプロジェクターを活用し、効果的な授業が展開できた。
・授業動画は小テストや考査の前に多く再生され、生徒の自学にも有益であった。
・ジャムボードも継続利用し、ミートを使い授業配信することができた。
・ICT を活用した新しい教材づくりに取り組んだ。

◆　学校評価　生徒アンケートより



学習指導に対する生徒の満足度



３年間連続して「満足・どちらかといえば満足」が伸びている

【授業アンケートから】
・プリントが見やすくて、分かりやすい。図や写真があるのでイメージしやすい。
・分からないところがあっても、しっかり説明してくれるのでとても助かる。
・班活動が楽しかった。　・分かりやすくてよい。　・質問をみんなにしてくれるので発言しやすかった。

◆　成果のまとめ

①【教員】基礎学力定着のため「わかる授業」を行うことに対する認識の深化（研修等）
②【教員】学習状況等アンケート（年２回×３年間）を実施することによる事業の継続化
③【生徒】第２回スタディサポートを実施することによる学習時間の確保に対する意識の向上
④【学校】スタディサポートと学力向上委員会の実施による PDCA サイクル校内体制の確立

実践研究の成果

◆　教員の「分かる授業」への共通認識の浸透
◆　生徒の学習に対するモチベーションの向上
◆　ＩＣＴを利用した授業改善の促進

学校ウェブページＵＲＬ	http://www.yunan-h.ysn21.jp/

山口県立下関双葉高等学校

学校概要

○平成 31 年４月開校
○２部制の多部制定時制（昼間部・夜間部）
○総合学科（普通系列・工業系列・商業系列）
○令和２年８月下関総合支援学校高等部が移転・併置
※生徒数 125 人（R 3.12.1 現在）

研究テーマ

基礎学力の定着と主体的に学習に取り組む態度の醸成を意識した授業展開・学習指導の在り方

実 施 内 容

◆ **使用した測定ツール**

進路マップ　基礎力診断テスト（Ｃタイプ）（ベネッセコーポレーション）

◆ **３年間の主な取組内容**

年次	時期	内　　容
令和元年度	４月 ５月 ７月 ９月 11月 12月	・基礎力テスト（１年次生対象、国・数・英、学校作成） ・第１回学力向上委員会（研究推進の方向性の確認） ・「高校生のための学びの基礎診断」実施 ・第２回学力向上委員会 （受検結果の分析、岡山大学教授による講義及び指導助言） ・先進校視察（岡山県立烏城高等学校） ・第３回学力向上委員会（先進校視察の報告）
令和２年度	５月 ７月 10月	・基礎力テスト（１年次生対象、国・数・英、学校作成） ・課題テスト（２年次生対象、国・英、学校作成） ・第１回学力向上委員会（研究推進の方向性の確認） ・「高校生のための学びの基礎診断」実施 ・第２回学力向上委員会（受検結果の分析） ・第３回学力向上委員会（現状分析と今後の方針）
令和３年度	４月 ５月 ７月 10月 12月	・基礎力テスト（１年次生対象、国・数・英、学校作成） ・第１回学力向上委員会（研究推進の方向性の確認） ・「高校生のための学びの基礎診断」実施 ・第２回学力向上委員会（受検結果の分析） ・第３回学力向上委員会（現状分析と３年間の総括）

※　令和２年度、３年度はコロナ禍のため先進校視察等未実施

★「高校生のための学びの基礎診断」実施の様子

◆　**実践研究**

◎現状把握

・義務教育段階の学習内容が身に付いていない生徒が多数在籍

◎授業改善

・本時の「ねらい」を明確にする

・「（自分で）考える」「（他者と）話し合う」時間をつくる

・「教員はカウンセラー」⇒「生徒が学ぶ」

◎成果

・授業に対する生徒の高い満足度

・進路実現（卒業生のほぼ全員が希望の進路を実現）

★学力向上委員会における研究協議

◆　**実践研究成果の継続的な活用手法**

「わかる・できる」を「もっと学びたい」につなげ、「基礎学力を育成」

※就職先で活躍することができる力

※進学先で学び続けることができる力

生徒の自信　（　主体的な進路選択　→　進路実現　）

「双葉スタイル」の確立をめざして

「現状を知る」→「正しい努力を継続する」→「成長を実感する」

教員の支援

◎客観的なエビデンスを示し、理解させる。

◎個別最適化された学びを提供する。

◎努力が評価される仕組み、体制を構築する。